

「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業構想〈小・道徳〉

特別研修員 道徳 三戸 真紀（小学校教諭）

主題名 相手のための親切
内容項目 B-(7)親切、思いやり
教材名 『やさしいユウちゃん』

主題名 相手の立場も大切に
内容項目 B-(11)相互理解、寛容
教材名 『すれちがい』

授業改善の視点

多様な感じ方や考え方を共有するために、児童の考えを書かせて可視化する。また、道徳的価値の理解を深められるようにするために、出された考えを全体で比較・検討しながら話し合いを進める。

授業改善の視点

児童一人一人が、身近な問題を主体的に対処することができるようにするために、問題解決的な学習を取り入れる。また、登場人物の行動や心情を理解しやすくするために、板書を工夫する。

過程

主な学習活動（○発問 ◎中心発問）

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○親切とはどういうことですか。また、親切にされると、どのような気持ちになりますか。

道徳的諸価値についての理解を深めるために

- ・「よくない親切があるのか」ということに触れる。
- ・一人一人の生活に根差した問題を取り上げ、自分ごととして考えられるようにする。

親切とは何だろう。

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○自分の考えを分かってもらえなかった時、みなさんは、どのようなことを思ったり感じたりしましたか。

道徳的諸価値についての理解を深めるために

- ・「自分の考えを分かってもらえなかった時、どんな気持ちになりましたか」という事前アンケートの結果をまとめておき、掲示する。

他の人と分かり合うために大切なことは何だろう。

展開

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行う。

- ユウちゃんといっしょになれてよかったと言われたユウコは、どのような気持ちだったでしょう。
- ◎本当に、それでいいのかなと、しばらく考え込んだとき、ユウコは、どのようなことを考えていたでしょう。



<グループでの話し合い>

- ①個人の考えをワークシートに書く。
- ②グループで話し合う。
- ③友達の意見を聞いて別の視点に気付いたり、考えをつけ足したりして、児童に考えを書かせる。
- ④全体で話し合う。



<出された考えを比較・検討する場面>

○相手のためになる親切とは、何だと思えますか。

物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために

- ・多様な感じ方や考え方を共有させ、道徳的価値に対する自己の考えを深められるようにする。
 (例) グループの話し合い、全体での比較・検討する場

2. 道徳的な問題を探究する。



<時間に沿って行動を整理した板書>

- よし子とえり子のすれ違いが生まれたのは、どのようなことが原因でしょう。
- ◎二人にどのような心があれば、すれ違ったり、けんかになったりしなくてすんだのでしょうか。



<机配置を生かした話し合い>

○他の人と分かり合うために大切なことは、何だと思えますか。

物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために

- ・道徳的価値に深く関わる児童の発言に対して、教師から問い返しを行う。
- ・一人の児童の発言に対して、他の児童から共感、質問、意見などを求め、道徳的価値の理解を深められるようにする。

終末

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○親切について、今までの自分はというふうにかえていたかを振り返り、これからどのような気持ちが大切かを考えましょう。

自己の生き方についての考えを深めるために

- ・振り返った経験の具体的な場面や、今までの考えが変わった理由を書かせ、これからの生き方に生かせるようにする。

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○今までの経験を振り返り、他の人と分かり合うために大切なことができていたかを考えましょう。

自己の生き方についての考えを深めるために

- ・導入時のアンケート結果を活用して、これまでの自己を振り返らせ、よりよい生き方について考えられるようにする。

道徳科学習指導案

平成30年10月 第5学年 指導者 三戸 真紀

1 主題名 相手の立場もたいせつに 内容項目B-(11)相互理解、寛容

2 教材名 「すれちがい」 (出典：日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

豊かな社会をつくるためには、自分以外の人と互いの思いや考えを認めて理解し合い、高め合える関係を築くことが必要である。そのためには、「自分と違う考えの人もある」という個人の価値観の多様性を理解し、自分と異なる意見や立場も広い心で受け入れようとすることや、自分の考えや意見を理解してもらえるよう相手に伝えることが大切である。しかし、人は誰でも自分本位な考えに陥ったり、異なる意見や立場を受け入れられなかったりする弱い心をもっている。だからこそ、相手から学ぶ姿勢を常にもち、相手と互いに理解し合おうとする態度を育成する必要がある。これはいじめの未然防止だけでなく、いじめを生まない雰囲気や環境を醸成することにもつながる。共によりよく生きるために、自分と同様に他者を尊重する態度を育てることが重要である。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、内容項目B「主として人との関わりに関すること」の学習を通して、相手の立場に立って親切にすることや、友達と広い心で接することの大切さを学んでいる。また、広がりや深まりのある人間関係を築くためには、自分自身を謙虚に振り返って自分も過ちを犯すことがあると気付いたり、相手の立場に立って理解を深めようとしたりする心が必要なことも学んでいる。高学年としてリーダーシップを発揮できるようにするためにも、相手の立場を理解し、広い心で接したり、相手の思いや意見を尊重したりすることの大切さに気付かせたい。

(3) 教材について

本教材は、ピアノ教室に一緒に行く約束をしたよし子とえり子が、それぞれ自分本位な考えで行動したために約束を守ることができなくなり、互いに腹を立ててしまうという内容である。登場人物に感情移入しやすく、同時刻の二人の行動を比較しながら読むことができる構成となっている。人にはそれぞれ事情があり、予測できない事態に陥っていることもある。そこで、相手の状況を想像したり、問題が起きたときに話し合いで解決しようとしたりする態度を育てることが、円滑な人間関係においては大切となる。見えない相手の置かれた状況を想像し、相手の立場に立って行動することの難しさと大切さを、自分との関わりで考えることのできる教材である。

4 指導方針

○本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつために

・本時の道徳的価値に対する児童の意識を事前アンケートで把握しておくことで、普段の生活上の問題解決につながるような導入にし、自分との関わりで考えられるようにする。

○中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために

・児童一人一人が、他人と関わる中で起きる問題に、主体的に対処しようとする資質・能力を養うために、問題解決的な学習を取り入れる。
・机の配置やグループの人数を工夫して話し合わせることによって、物事について一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させて、自分との関わりから深く考えられようにする。

○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

・問題解決に関わる導入時の問いを想起させて、本時の学習を振り返ることで、自己の課題を自覚し、これからの思いや願いについて考えられるようにする。

5 本時の展開

(1) ねらい

他人と関わる中で起きる問題を解決するために大切な心を考えることを通して、相手の立場を考えたり気持ちを想像したりして、広い心で相手と互いに理解し合おうとする態度を育てる。

(2) 準備

教師：ワークシート、場面絵、デジタル教科書

(3) 展開

学習活動と発問	時間	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 本時の学習の方向をつかむ。</p> <p>○自分の考えを分かちてもらえなかった時、みなさんは、どのようなことを思ったり感じたりしましたか。</p>	3分	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを分かちたい。 何で分かちたくないの。 もういいや。 かなしい。 くやしい。 どうすれば分かちてもらえるのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 他人とうまく付き合えなかったときの経験を想起させることで、教材の登場人物の気持ちを想像しやすくなるようにする。 アンケート結果を黒板の端に移動して活用することで、振り返りの際に個々の児童の意識の変化を確認できるようにする。
<p>他の人と分かり合うために大切なことは何だろう。</p>			
<p>2 教材を読んで話し合う。</p> <p>○よし子とえり子のすれ違いが生まれたのは、どのようなことが原因でしょう。</p>	12分	<p>【よし子】</p> <ul style="list-style-type: none"> せっかち、自分勝手 二階でピアノを弾いていたこと。「まだ時間があるわ」 30分で買い物が終わると勝手に考えたこと。 「時間をもったいないから先に広場に行こう」 三時より前にピアノの先生のところに先に行ってしまったこと。 「待っているのは疲れた」「一人は寂しいからもう行こう」 	<ul style="list-style-type: none"> 時間に沿って、登場人物の行動や心情を整理することで、二人のすれちがいの原因が分かりやすくなるようにする。 二人が、それぞれの勝手な思いで行動したことについて、全体で共有し、問題点を整理する。そして、どちらにも足りない心があったことに気付かせることで、ねらいに迫れるようにする。 自他の考えをグループで交流させることで、新たな気づきを得られるようにする。 「個人→グループ→全体」と、話し合いの規模を少しずつ広げていくことで、全体の場で発言できない児童にも発言の機会を増やし、多様な意見を交流することができるようにする。
<p>【えり子】⇒のんびり屋</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間があやふやなところ。「また連絡すればいいや」 よし子がないのに、いつまでも公園にいたこと。「よし子さんが探しに来てくれるかもしれないな」 			
<p>◎二人にどのような心があれば、すれ違ったり、けんかになったりしなくてすんだのでしょうか。</p> <p>〈個人〉3分 〈グループ〉6分 〈全体〉6分</p>	15分	<ul style="list-style-type: none"> 相手のことを考える心。 相手を許す広い心。 「ごめんね」と思う心。 仲よくしたいと思う心。 相手を心配する心。 遅れた理由をちゃんと聞こうとする心。 自分にも悪いところがあったと気付ける心。 	
<p>○他の人と分かり合うために大切なことは、何だと思えますか。</p> <p>【問い返し(◇)】</p> <p>◇広い心をもてると、どのようなよいことがありますか。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちや考えを知ろうとすること。 自分の気持ちや考えを伝えようと努力すること。 自分にとって都合の悪いことをされても、広い心で許すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 問い返しによって、児童の考えをゆさぶることで、新たな気づきなどから多面的な見方や多角的な見方ができるようにする。
<p>3 自分の経験を振り返る。</p> <p>○今までの経験を振り返り、他の人と分かり合うために大切なことができたかを考えましょう。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを分かちきれない時はイライラしたけど、これからは自分も相手の考えをちゃんと聞くようにしたい。 広い心をもつのは難しいけど自分も完璧じゃないから広い心で友達に接していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時の問いを想起させ、本時の学習を振り返ることで、自己の課題を自覚し、これからの思いや願いについて考えられるようにする。

(4) 評価の視点

- どのような心があれば、二人がすれ違ったり、けんかになったりしなくてすんだのかを考えることで、広い心で相手と互いに理解し合おうとすることについて、多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- よし子とえり子のすれ違いやけんかの原因について考えることで、広い心で相手と互いに理解し合おうとすることについて、自分自身との関わりの中で深めているか。

指導例：主題名 相手の立場も大切に B-(11)相互理解、寛容
教材名 『すれちがい』（日本文教出版）第5学年

ねらい：他人と関わる中で起きる問題を解決するために大切な心を考えることを通して、相手の立場を考えたり気持ちを想像したりして、広い心で相手と互いに理解し合おうとする態度を育てる。

過程

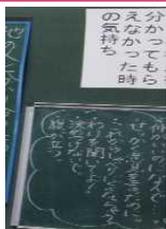
主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇問い返し）

指導のポイント

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

- 自分の考えを分かってもらえなかった時、みなさんは、どのようなことを思ったり感じたりしましたか。
- S：ちゃんと話を聞いてよ。
- S：仲がいいのに何で分かってくれないのかな。
- T：相手に対して嫌な気持ちをもつ人が多いようですが、その時の自分は相手の考えを分かろうとしていたでしょうか。他の人と分かり合うのはとても難しいですね。



他の人と分かり合うために大切なことは何だろう。

＜ミニ黒板に板書したアンケート結果＞

問題意識

- 生活上の問題と中心的な教材の類似点から問題意識につなげる。
- 振り返りで個々の意識の変化が確認できるように、アンケート結果を黒板の端に移動して活用する。

2. 道徳的な問題を探究する。

- よし子とえり子のすれ違いが生まれたのは、どのようなことが原因でしょう。
- S：よし子が勝手に決めて行動してしまったこと。
- S：よし子に伝えられていないのに、えり子が家の手伝いでスーパーに出かけてしまったこと。
- T：両方の行動に問題があったようですね。
- ◎二人にどのような心があれば、すれ違ったり、けんかになったりしなくてすんだのでしょうか。
- S：二人とも相手の立場や気持ちを考える心が足りないね。
- S：よし子は自分勝手だと思う。相手の事情も聞いてあげるべきだよ。
- S：よし子に広い心があれば、えり子を許して仲直りできたのに。
- S：えり子はすぐにあきらめてしまったけれど、もっと自分のことを知ってもらうために伝えようとする心があればよかったと思う。



＜時系列に沿った板書＞



＜コの字型の机配置＞



＜グループでの話し合い＞

問題の発見

- 児童から多様な感じ方や考え方を引き出し問題点に迫るために、時間に沿った板書にする。
- 「どのような気持ちかな？」「どうして？」など問いかけながら、問題点を掘り下げる。

中心発問

- 二人それぞれの勝手な思いや行動について全体で理解したところで、どちらにも足りない心があったことに気付かせ、本時のねらいに迫れるようにする。
- 自他の考えをグループで交流させ、新たな気付きが得られるようにする。

展開

「個人→グループ→全体」と話し合いの規模を少しずつ広げていくことで、多様な感じ方に触れたり、問題解決の方法について多面的・多角的に考えたりできるようにする。

問題の探究

- 行動面の解決策だけでなく、どのような心で行動すればよかったのかを考えさせ、道徳的価値についての理解を深められるようにする。

- 他の人と分かり合うために大切なことは、何だと思いますか。
- S：相手の気持ちや立場を考えて行動すること。
- S：自分の思いを相手に伝えようとすること。
- S：広い心をもつこと。自分も失敗したり、悪かったりすることがあるから。
- ◇広い心をもてると、どのようなよいことがありますか。
- S：相手に対してやさしくなれる。
- S：相手の話を聞く気持ちになれるし、相手と分かり合える。



＜教師からの問い返し＞

探究のまとめ

- 問い返しによって、児童の考えをゆさぶることで、新たな気付きなどから多面的な見方や多角的な見方ができるようにする。

終末

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

- 今までの経験を振り返り、他の人と分かり合うために大切なことができたかを考えましょう。
- S：自分の考えを分かってくれない時はイライラした。だから、これからは自分も相手に分かるように伝えたい。
- S：広い心をもつのは難しいけど、自分も完璧じゃないから、広い心で友達に接していきたい。

導入時のアンケート結果を活用し、相手を分かろうとしたり、広い心で受け入れたりすることが、分かり合うために大切であると気付かせる。

振り返り

- 導入時の問いを想起させた上で、本時の学習を振り返らせることで、自己の課題を自覚し、これからの思いや願いについて考えられるようにする。

評価の視点

- どのような心があれば、二人がすれ違ったり、けんかになったりしなくてすんだのかを考えることで、広い心で相手と互いに理解し合おうとすることについて、多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- よし子とえり子のすれ違いやけんかの原因について考えることで、広い心で相手と互いに理解し合おうとすることについて、自分自身との関わりの中で深めているか。